

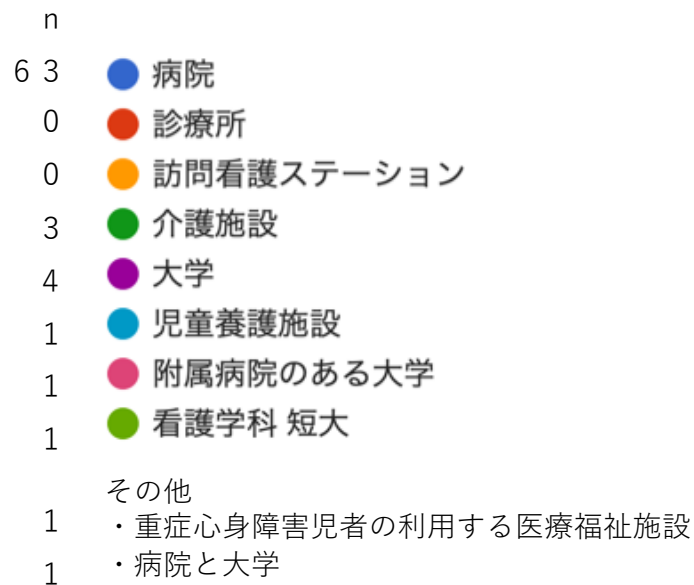
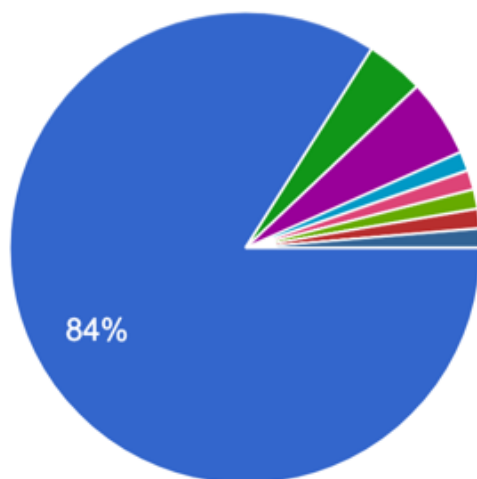
日本看護倫理学会 緊急調査

結果速報(2020.5.8) (無断転用を禁じます)

- 5月7日までに、75名の方から回答を頂きました。調査にご協力いただきまして、感謝申し上げます。
- 1名を除いて看護職として頑張っておられ、63名が病院、3名が介護施設、その他9名が教育機関、施設等に所属しておられます。
- 所属施設の約半数に新型コロナウイルス感染者（以下、感染者）が入院・入所されており、現在も新たな受け入れをされておられます。その中で、同僚の17%に感染者、濃厚接触者がおられるという過酷な状況が示されました。
- さらに、約80%の方は、自身や家族への感染のリスクについて「ある程度以上」～「強く」心配されておられますが、家族への感染リスクをより強く心配しておられます。感染から身を守る方法については、80%以上の方は自信があると答えておられますので、種々の理由で防ぎ得ない感染へのリスクがその背景にあるのかも知れません。
- 医療専門職者として、「たとえ自らの感染のリスクがあっても責務を全うすべきか」については、約80%の方が同意する一方で、ほぼ同数の方が「自らの安全のために拒否できる」という考えにも賛成と回答しており、責務の遂行と自らの安全の確保との間に強い葛藤が示される現実に、改めて看護・介護に従事する会員の皆様のご苦勞が窺われます。
- そんな状況の中で、91%の方は社会の理解不足を感じておられ、具体的にはマスク等の防護具不足の改善を強く望んでおられます。厳しい勤務状況を背景に、交代要員の確保や施設・行政からの支援を望む声も多くあります。依然として示される社会からの差別や誹謗中傷について、一刻も早い解決を望む声も約半数の方から寄せられました。
- いま、何よりも望まれるのはマスク等の防護具の十分な確保であり、本当に過酷な医療・介護の状況が示されました。
- 自由回答には、28件の声が寄せられました。これらについては、課題検討委員会の委員一同がしっかり読み解き、いまある看護倫理上の課題の明確化と対応策の検討に取り組んでいきたいと思っております。
- 以上、調査結果の速報を提示させていただきます。

あなたが勤めている施設を選択してください

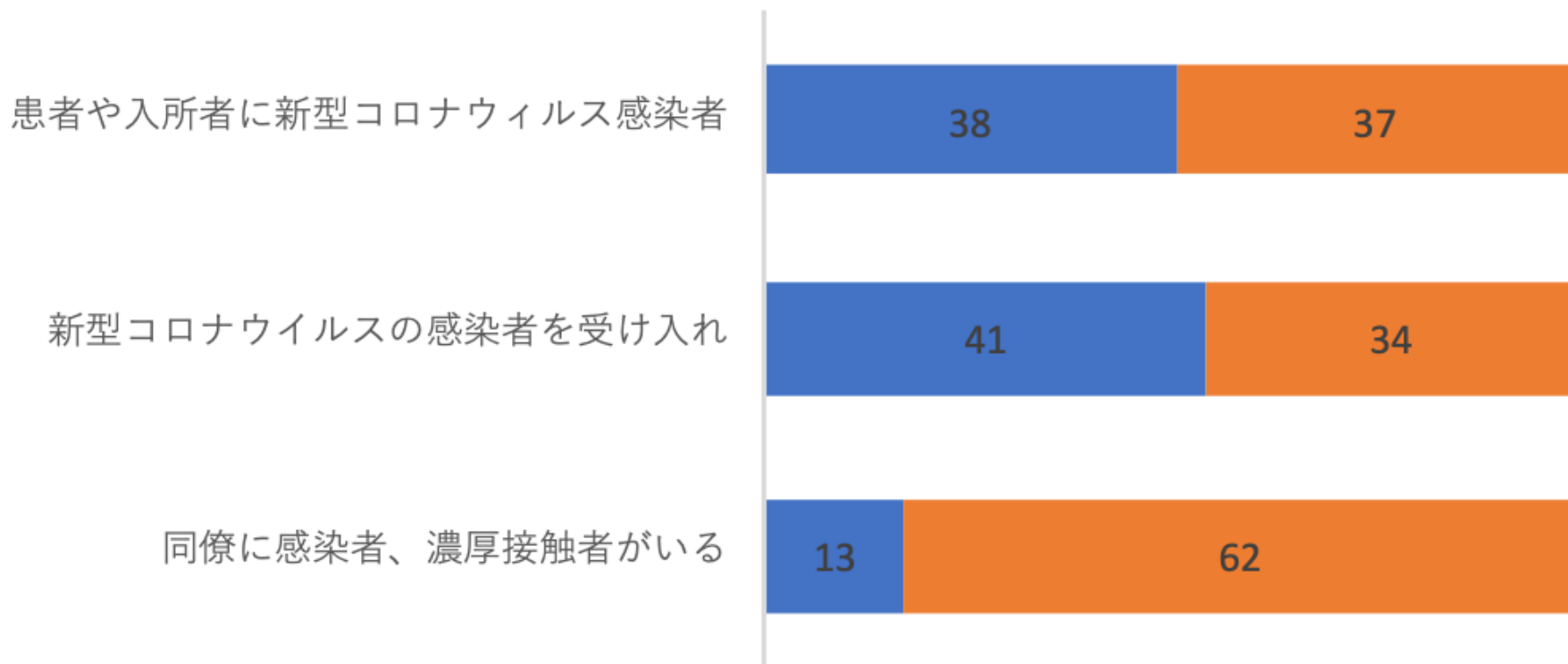
75件の回答



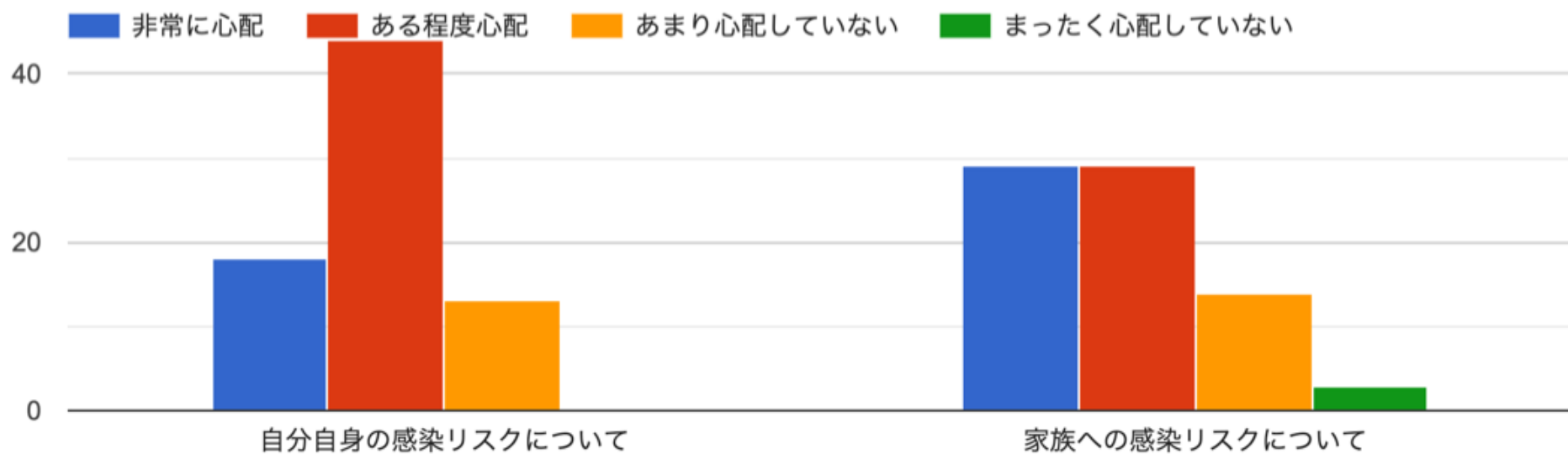
回答者は、一人を除いて（74名）看護職

所属施設の状況

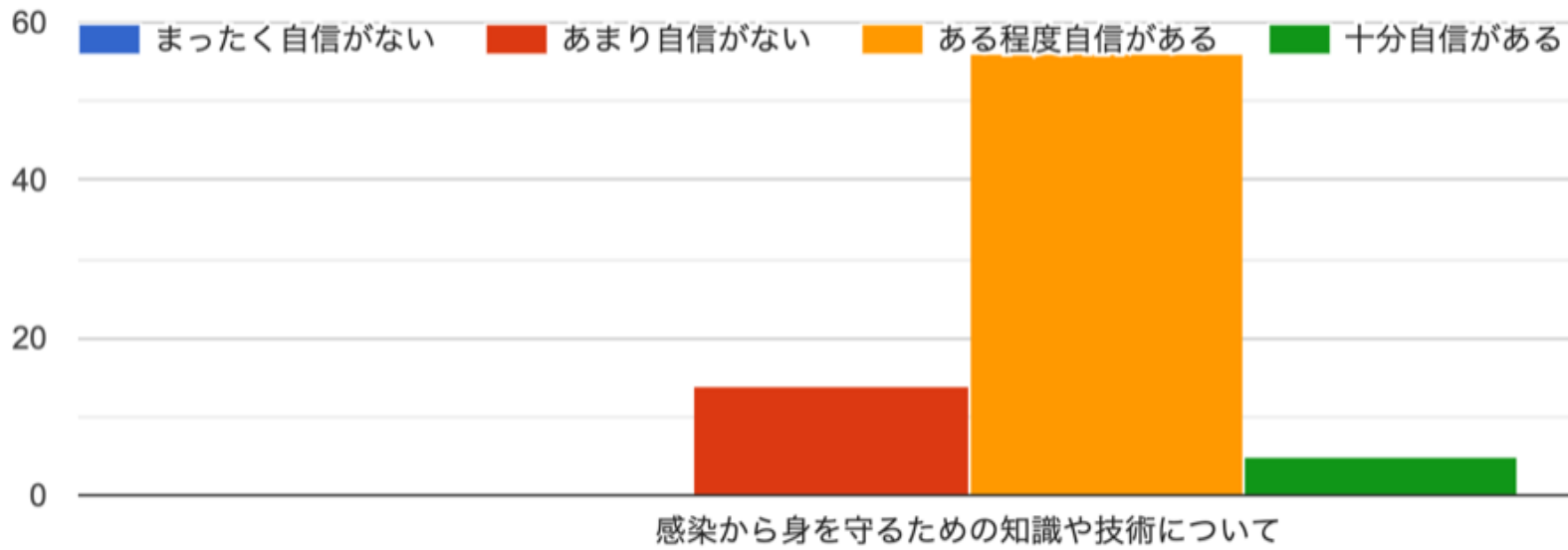
■ いる / yes ■ いない / no



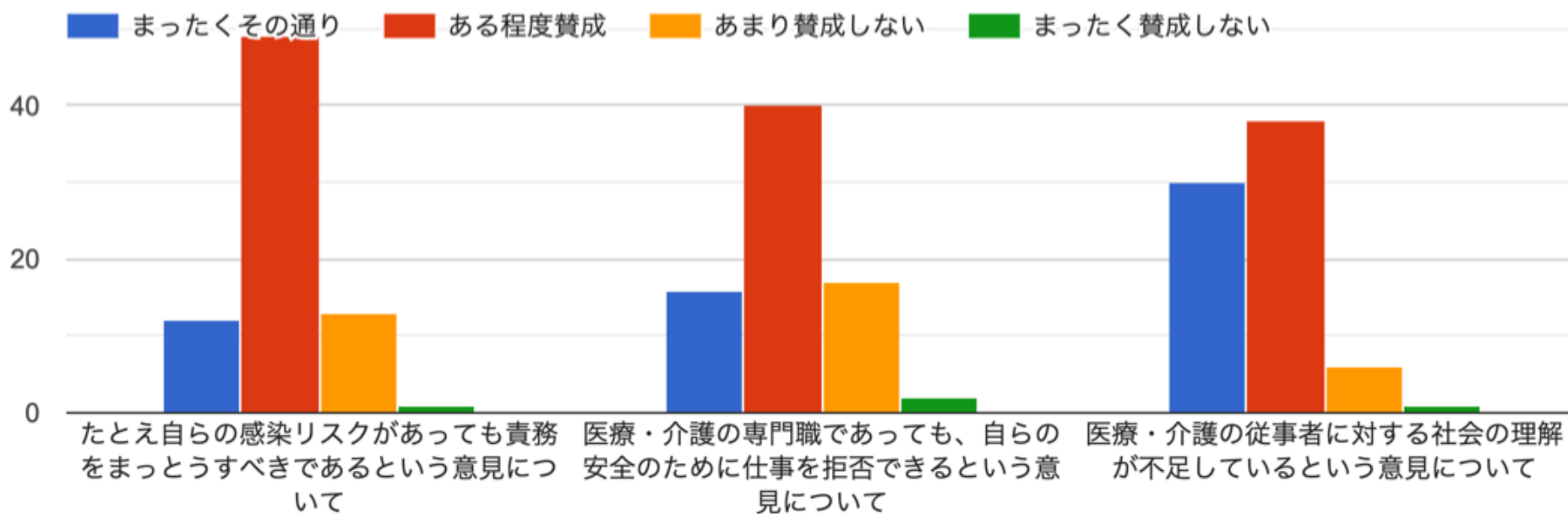
あなたの気持ちや、今抱えている困難について教えてください n=75



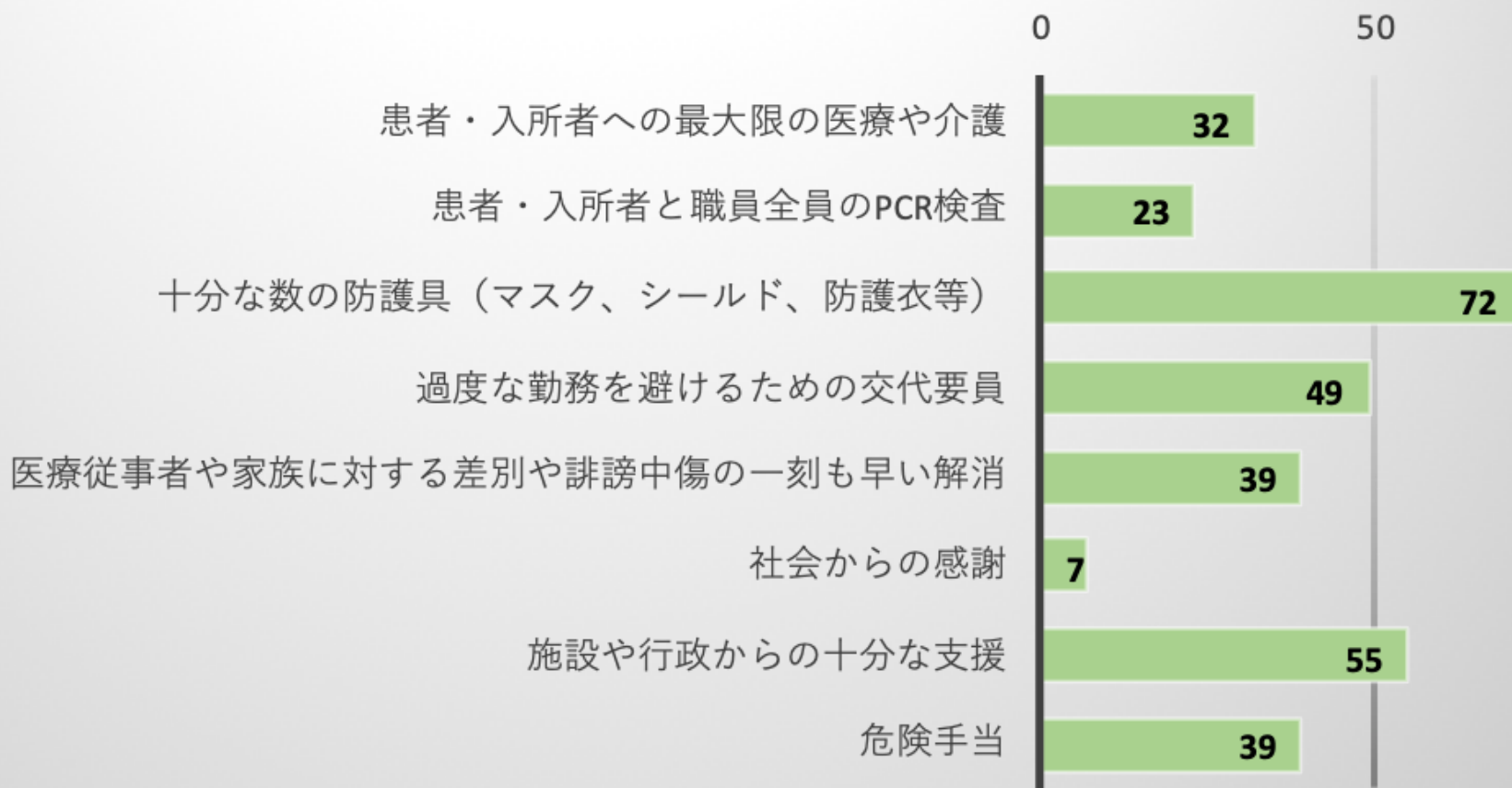
n=75



医療者・介護者としての今のお気持ちを教えてください n=75



いま、強く望むもの（複数回答） n=75



もっとも強く望むこと

n=75

